

29年度 見附市教育センター 第15回 4時から夢塾



日時：平成30年2月8日(木)15:30～16:40

会場：見附市役所 4階大会議室

テーマ：「特別支援教育」(的確な把握と効果的な指導)

「特別支援教育」(的確な把握と効果的な指導)をテーマに、新潟大学教職大学院教授の古田島恵津子様(ふるたじま けいすき)の指導で、研修を行いました。子どもたち一人一人を的確に把握し、その子の特性を理解して効果的な指導をどのように進めるかを学びました。数々の実践例など具体的なお話の中に、指導の在り方を確認することができました。

講師：古田島恵津子様(新潟大学教職大学院教授)

< 講座の概要 >

1 的確な把握のために (LD, ADHD 等心理的疑似体験プログラム)

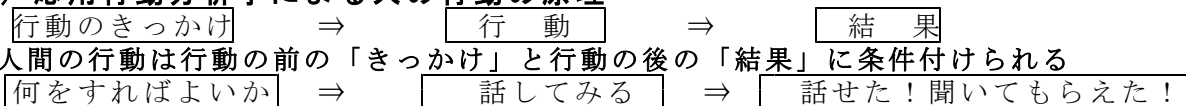
(1) ワーク4「文は読めるんだけど」(①～③について考えたことを共有する)

- ①体験しているときの自分の気持ち
- ②上手くいかない原因 (教師の対応や教材も)
- ③子どもが文の内容を理解できるように教室でできること

(2) 障害のある子、支援を必要とする子どもたち

- 1. LD (学習障害) 2. ADHD (注意欠陥多動性障害) 3. ASD (自閉症スペクトラム)
- 4. 知的障害 5. 視覚・聴覚・肢体不自由・病虚弱 6. L G B T (7.6 %)・要保護家庭・施設から通う児童など、この子たちが上手くいかない原因は?
- ⇒ (本人の能力・本人の努力不足・教師の教え方・教材教具・人間関係・家庭環境)

(3) 応用行動分析学による人の行動の原理



- ・明確な課題・見通し (やれそうだ)
- ・聞いてくれる安心感のある集団
- ・パターン化 (繰り返しの活用)
- ・ワークシート・ICTの活用
- ・スモールステップ・座席の配慮等

望ましい行動の増加・話すって、楽しい!の増加

理解しようとして話を聞いてくれる存在

(4) 読みの苦手さの原因③ 知識・経験の不足

明日は、遠足です。でも、空は今にも雨が落ちてきそうです。

太郎君は、朝から何回も空を見ています。どうして、太郎君は空をみているのかな??

行間を読む⇒明日は遠足・楽しみ・雨だと中止・だから・雨が降らないかと心配で

◎書かれている文に関する他の知識や経験が必要である。

(5) デジタル教科書の活用 (映像・音声・挿絵や本文拡大・書き順アニメーション等)

(6) 伝わりやすい話し方 (具体的な言葉で簡潔に説明を終了している等)

2 一つだけの指導方法 (教師としての基本)

※なぜ、疑似体験のような授業になるのか⇒ 教師の経験値だけに頼った一方的な指導方法

<大島先生> 聴覚優位タイプ 体感覚優位タイプ	<大島先生と太郎さん>	<太郎さん> 聴覚と体感覚を使うことが苦手
<ul style="list-style-type: none"> ・文字がきれいで早い。 ・口頭での指示が多い。 ・ほめるより、注意することの方が多。 <p>◆仕上りの汚さを指適</p> <p>◆漢字テストに合格するまで何度も再テスト</p> <p>” 怒り ”</p>	<p>★大島先生にとっては 当たり前なのが、太郎さんには難しい。学習タイプの違い。</p> <p>★大島先生は太郎さんの困っている気持ちが理解できない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことと運動が苦手 ・大勢の中で聞くことが苦手 ・理解力も発言力もある (知的な理解力は高い) <p>◆仕上りの汚さ→書き直し</p> <p>◆漢字の書き間違いを繰り返す</p> <p>文句を言う・怒る・やらない・泣く</p>
どう対処していいかわからない	★教室に漂う緊張感	いつも叱られる 太郎さんは(ぼくは)ダメな子

普段の授業で、視覚、聴覚、体感覚のどれを最もたくさん用いて授業をしているか?

子どもは、教師とは違う感覚で学ぶことが得意かもしれない。

⇒多様な感覚を用いた課題の提示・教示・活動・表現・意欲とそれを維持させる工夫が必要である。子どもが授業に上手く参加できない原因を教師の教え方も含めた教室環境から分析し、可能な限り改善することが大切である。

3 柔軟な発想 (効果的な指導のためにできること)

◎学習スタイル (学習する際の優位感覚) ⇒ A.聴覚系 B.言語感覚系 C.触覚系 D.視覚系

※学習する際の優位感覚を知れば、学ぶスピードが上がる。

◎「選べる学び方を実現する授業」⇒附属中学校の理科の授業実践

◎「選べる学び方」を考えてみる ⇒これから取り組む授業で、一人一人が主体的に授業に参加できるように、「選択肢」のある学び方を考えてみる。

< 参加者の声 >

○「文は読めるけど、なぜ理解できないのか」子どもの立場に立って、考えることの大切さを感じました。物事を多面的に見て支援することが、その子の「分かる・できる」につながるということが分かりました。

○「子どものタイプを見取り、それにあった支援の方策を考える。さらに子どもにいくつかの選択肢を示し、学習スタイルを選ばせる」ということを学びました。今後の実践に生かします。

